

新庁舎建設に関する意見交換会 質疑応答（壬生地区）

【開催日時】平成30年9月6日 19:00～20:30

【参加者】26名

【主催者側出席者】

小菅町長、櫻井副町長、出井総務部長

〈総合政策課〉 人見課長、玉田課長補佐兼係長

〈新庁舎建設室〉 増山室長、葭葉室長補佐兼係長、糸川主査、古川主査

【質疑応答】

Q. 新庁舎の整備には多額の事業費がかかるが、それによって今後税金が上がることはないのか？

A. 税金については地方税法という法律によって課税をしており、均等割りで金額は決まっている。

また、所得に対する税率も住民税は10%で決まっているため、大きな事業を行ったから町民の税金が上がるといったことは一切ない。（総務部長）

Q. 説明だといろいろな設備が参考に出てきたが、壬生としての個性はどう出していくのか？

A. 庁舎は壬生町の新たなシンボルということで、外観としては奇をてらったものではなく、庁舎としてオーソドックスなものを考えている。ただそういった中で、壬生の歴史、自然、文化に恵まれた地域特性があるので、なんらかの形でデザイン等の中に生かしていきたいと考えている。また、内部のレイアウトや什器などについても、華美なものなどを使うつもりはなく、あくまで利用者が使いやすいものであることを第一に考え、なおかつ職員が仕事をしやすいものを考えていきたい。（新庁舎建設室長）

Q. 町営グラウンドを利用しているのだが、CDグラウンドが使用できなくなるのは具体的にいつ頃からになるのか？また代替地は検討しているのか？

A. CDグラウンドは工事に入れば使えなくなるので、今の予定では来年の秋以降は使用ができなくなる。また、設計の段階でも地質調査などを実施する必要があるため、全面ではないと思うが部分的に使えなくなる可能性はある。

代替施設については今考えているところであるが、ABグラウンドについてもマウンドがあるため全面使うことはできないが、それ以外の部分を使ってABグラウンドでできるものはABグラウンドを使ってもらったり、北部運動場・南部運動場についても現在使用している団体とのスケジュールを調整しながら有効活用することも考えている。具体的にはこれからの検討になるので、今利用している団体と今後意見交換会などを行っていきたい。（新庁舎建設室長）

Q. 現本庁舎が移転後、役場跡地に出張所を作る予定はあるのか？

A. 出張所の有無についても、今後庁内の検討委員会や外部の検討委員会を設置する予定であり、その中で議論をしていきたいと考えている。稲葉出張所や南犬飼出張所もあるので、そちらのあり方も含めて議論を重ねていきたいと考えている。（総合政策課長）

Q. 壬生に出張所を置いてほしいというのは私もこだわっており、壬生の知り合いも出張所ができるのが当たり前だという考えを持っている。自治会長も出張所ができるということも言っていたが、これまでの話を聞いたところでは出張所を作るという話は全然出てこないため、一体どうなっているのだろうと思っているところである。高齢者も多くなっているのに、出張所はぜひ置いて欲しいと町民は思っている。

A. 出張所の設置については、ご要望として参考にさせていただきたい。（新庁舎建設室長）

Q. 要望なのだが、私は木に携わっている者として、新庁舎の内装などには自然に優しいということで木をたくさん使った庁舎にさせていただきたい。

A. 他の市町でも県産材や地場産品を率先して使ったり、デザインの中に活かしたりして進めているところが多いが、本町においても県産材などの使用について検討をしていきたいと考えている。（新庁舎建設室長）

- Q. 移転予定の場所は車でのアクセス性は良いが、最寄りの国谷駅から1 km以上あるため、バスを走らせたりする予定があるのか？あるいは星の宮カントリークラブの辺りに新しい駅を設置するなどの考えはあるのか？
- A. 付帯意見としても、自動車利用困難者も庁舎へのアクセス性が確保できるように交通体系を検討することとあり、現在本町でもデマンドタクシーを運行しているが、今後アンケートを実施し、町民の方のご意見を集約したいと考えている。その中に新庁舎へのアクセスについても盛り込み、その結果を分析して町民にとって利便性のよい交通体系を構築していきたいと考えている。(総合政策課長)
- A. 私も職員に対しては、新庁舎を契機に高齢者も利用しやすい新交通システムを作り上げたいと伝えている。また東武宇都宮線に新しい駅ができないのかという点についてだが、それは全く考えていない。一部の議員の方が、今の星の宮カントリークラブのログハウスが新しい駅にできるように作ったという話があり、そこを駅にすればいいのではないかという話をしているようだが、今東武鉄道との交渉ではおもちゃのまち駅へのエレベーターの設置を一生懸命お願いしているが、それすらもなかなか厳しいという現状である。今後近隣の市町などと東武鉄道と話をする機会があった際に、そういった話ができればありがたいと思っているが、現在の東武鉄道の状況を見ると、新駅を作るということはないと思う。(町長)
- Q. 役場がなくなるということは、壬生の旧市街地にぽっかりと穴が開くことになる。約220人の方が仕事をしているという消費がこの地区から全くなってしまうので、今後どのようなまちづくりを考えているのか？このままだと寂れてしまう。シンユーもなんとかヤオハンとして残り、それ以外の商店もどんどんなくなっているという状況で、今後街なかがどんどん寂れていくということが考えられるが、その辺はどのようなまちづくりを考えているのか？
- A. 今後庁舎の移転が中心市街地の空洞化を招かないよう、現庁舎を地域住民あるいは観光客の集う街なか創生拠点にしたいと内部では共通認識をもっている。中心市街地には歴史・文化を踏まえた建造物があり、そういった強みを活かしたこの地域の活用方法を考えていきたい。また蘭学通りではお祭りや雷電マルシェといったイベントも行われているので、そういったソフト面も併せて、今後内部の委員会や町民の皆様から選ばれた外部委員会といったところで検討を重ねて今後方向を考えていきたい。(総合政策課長)
- Q. まちづくりは観光地にすることではなく、住民が豊かに暮らせていけることだと思う。その辺はどのように考えているのか？
- A. 基本的にはこれから地元の方と話し合いをして今後作り上げていくことになるが、町としては、今回の場所は跡地という言い方をしているが跡地という考え方ではなく、新しく街なかに広い空間を確保することができたと考えて、これをキャンパスとして活用してどうやって街を活性化していくかを考えていきたい。これは役場だけでなく町全体で考えていきたい。まずは役場の方でも検討をしているところなので、今後提案をしていきながらどういうものを作り上げていくのか話し合いをしていきたいと考えている。(副町長)
- Q. 新しい役場では倍の広さになるが、ランニングコストが凄くかかると思うがその点はどのように考えているのか？
- A. 新たな庁舎は先ほど説明させていただいたとおり、環境や省エネルギーに配慮した施設にすることを第一に考えているが、他の市町を見ると、デザインに凝ってガラス張りにしたら逆に光熱費が上がってしまったりしているという話もあるため、設計の中で設計者とよく協議をしながら、ランニングコストの低減に努めていきたい。具体的に金額がいくらなのかということは今の時点ではデータはないが、設計をやっていく中で具体的な金額が見えてきたらお示しすることができると思うので、その時にはまたお話をさせていただきたい。(新庁舎建設室長)
- Q. 壬生町は江戸時代からずっと続いた歴史的な文化があるので、新しいまちを作るという訳にはいかない。その文化をどうやって活かしていけるのか、そういったところまで考えていただきたい。

また、よく50年100年先を見据えてという言葉が出てくるが、これは私は遷都だと考えている。やはり壬生の歴史が廃れないように考えていただきたいが、その点はどのように考えているのか。

- A. 跡地の活用については、跡地だけを考えるのではなく街全体を考え、歴史的・文化的な施設や、蘭学通りの電線地中化や城址公園の整備など積み上げてきたものがあるので、そういったものを活かしたまちづくりを考えていきたい。逆に庁舎移転を契機として、文化を活かしたまちづくりをこれからスタートしていくという考えで、今後いろいろ提案をしていきたいと思う。(副町長)